

上里町地域公共交通計画の一部変更について（案）

< 目標値の再設定 >

- ① 長期目標 2 持続可能な公共交通網を実現する
 評価指標 2 収支率(デマンド交通)

長期目標②：持続可能な公共交通網を実現する				
評価指標 2 収支率				
	数値指標			算出方法
	長期目標設定時点(R2)	現状値(R5)	目標値(R11)	
路線バス	56%	49%	現状値以上※	路線バス 経常収益= 営業収入+営業外収入(補助金を除く) 経常費用=営業費用+営業外費用 収支率=経常収益/経常費用×100 「こむぎっち号」・「デマンド交通」 収支率=運賃収入等/費用×100
こむぎっち号	1.8%	1.8%	3.6%	
デマンド交通	-	-	3.6%	

※路線バスの目標値に関しては、評価指標 5 において年間利用者数を増加させることを目指しており、運賃収入に関しても増加を目指すものであるが、人件費や燃料費等の運行経費の増加も想定されることから、現状より低下させないことを目標値とする。

- ② 短期目標 2 誰もが利用しやすい公共交通サービスへの改善
 評価指標 5 年間利用者数(こむぎっち号)

短期目標②：誰もが利用しやすい公共交通サービスへの改善			
評価指標 5 年間利用者数			
	数値指標		算出方法
	現状値(R5)	目標値(R11)	
路線バス	172,257人/年	182,900人/年	▶ 年間の利用実績
こむぎっち号	15,428人/年	16,700人/年	
デマンド交通	-	6,000人/年	

① デマンド交通の収支率目標値の再設定について

【変更理由】

令和7年3月に上里町地域公共交通計画を策定し、長期目標②『持続可能な公共交通網を実現する』の評価指標の一つとして、「デマンド交通」の収支率を位置付けた。

デマンド交通の収支率をこむぎっち号と同等(3.6%)とし、令和11年度まで毎年維持することを最終目標として設定した。しかし、令和7年度時点で想定を上回り、収支率3.95%を達成した。

デマンド交通は令和7年度から運行を開始したため、目標値設定について予測が困難であった。令和8年度以降の目標値については、令和7年度の実績を踏まえて再設定する必要がある。継続的なデマンド交通の運用のため、目標値を再設定する。

【変更案】

変更前:令和11年度目標値:3.6%

変更後:令和11年度目標値:4.2%

(再設定の考え方)

■考え方

目標値の再設定に関する考え方について、以下のとおりとする。

(1)目標収入

令和8年度4月の利用者数をベースとして、各分類の利用者構成比を算出する。

次に、利用者構成比に年間利用者数(目標値)を乗算し、分類ごとの年間利用者目標を算出する。なお、各年の年間利用者数(目標値)については当初の令和11年度最終目標値(6,000人)は変更せず、令和7年度実績値(5,386人)から令和11年度にかけて一律増加させた値とする。

最後に、分類ごとの年間利用者目標にそれぞれの「運賃単価」を乗算することで、利用者分類ごとの年間収入(推定値)を算出する。これらを全て合算し、「目標収入」とする。

(2)事業費予定

令和7年度の実績値に基づき、毎年物価上昇指数における補正(乗算)を行うものとする。

(3)目標収支率

従来通り、「(1)目標収入」を「(2)事業費予定」で除算することによって、「目標収支率」を算出し、目標値とする。

■算定結果

まず、令和11年度の目標収入(将来予測)は、1,321,142円となる。

事業費予定については、物価上昇指数(1.019%/年)による補正をかけると、令和11年度の事業費予定(将来予測)は31,349,174円となる。

最後に、「目標収入(将来予測)1,321,142円」を「事業費予定(将来予測)31,349,174円」で除算した結果、令和11年度の最終的な目標値を「4.2%」として再設定する。

② こむぎっち号の年間利用者数目標値の再設定について

【変更理由】

令和7年3月に上里町地域公共交通計画を策定し、短期目標②『誰もが利用しやすい公共交通サービスへの改善』の評価指標の一つとして、町内コミュニティバス「こむぎっち号」の年間利用者数を位置付けた。しかしながら、令和7年度の利用者数が想定を大きく上回り、令和11年度の最終目標値(年間利用者数16,700人)を前倒し(令和7年度時点)で達成した。継続的なこむぎっち号の利用者増加を図るため、新たな目標値を再設定する。

【変更案】

変更前:令和11年度目標値:16,700人/年

変更後:令和11年度目標値:**19,331人/年**

(要因分析)

1. 利用者数の推移と要因分析

こむぎっち号の利用者増加の要因を明らかにするために、利用者数の推移を分析した。

まず、利用者総数をみると、令和6年度の15,860人に対し、令和7年度は17,928人へと増加している。曜日別の動向においても、平日及び土曜日のいずれも令和7年度の利用者数が上回る結果となった。さらに、令和7年度から新規運行が開始した日曜日についても、他曜日と同等の利用者数を記録している。

利用者分類に着目すると、「免許返納無料券利用者」及び「高齢者無料パス利用者」において、令和7年度の利用者数が大幅に上回った。特に「高齢者無料パス利用者」については、令和6年度の3,780人から令和7年度には7,000人まで増加しており、利用者総数を押し上げる主たる要因になったと考えられる。

2. 利用分析からみる傾向

上記の分析から明らかになった「こむぎっち号」の利用実態に基づき、2つの主要な傾向を整理した。

①高齢者無料パス登録者数の増加

令和7年度に、高齢者無料パス登録者が大幅に増加している。それに伴って、こむぎっち号の高齢者無料パス利用者が大幅に増加したと考えられる。

令和7年度のような急激な増加は今後見込みにくいものの、高齢化率の上昇に伴い、継続的に無料パス利用者が増加することが想定される。

②日曜利用者の増加

曜日別利用者数の月別推移をみると、令和7年度より運行が開始された日曜日の利用者数は、月を追うごとに徐々に増加している。(1月以降減少しているが、一般的に外出が減少する行動実態に則った推移であると考えられる。)日曜運行の周知が進んだことで、徐々に利用者数が増加したと考えられる。

⇒今後、日曜運行のさらなる周知によって、日曜日の利用者数が、土曜日と同程度まで増加することが想定される。

(再設定の考え方)

■考え方

目標値の再設定に関する考え方について、以下のとおりとする。

- ①令和7年度の利用者数(17,928人)をベースとし、高齢者の人口増加率1%/年とする。
- ②日曜運行の継続的な周知により、令和11年度時点で「日曜日」の年間利用者数が、「土曜日」の年間利用者数と同等まで引き上がるものとする。

■算定結果

令和 7 年度の利用者数(17,928 人)をベースに、高齢者の人口増加率を 1%/年と設定し、令和 11 年度の利用者数(将来予測)は 18,656 人となる。

加えて、令和 11 年度に日曜日の年間利用者数が土曜日の年間利用者数と同等となることを想定して、日曜日の年間利用者数のみ、増加率を 6.86%/年と設定する。

「利用者数(将来予測)18,656 人」に日曜日の利用者数増加分を加えた結果、令和 11 年度の最終的な目標値を「19,331 人」として再設定する。

〈計画変更年月〉 令和8年10月